



(6)

スポーツ文化評論家 玉木 正之

野球は外野席から遠目に見渡すときと、ネット裏で間近に見るときでは、見え方がまったく違ってくる。いや、それどころか、「野球は、球場で席一つ変わっても違って見えてくるゲームである。しる」(フィリップ・ロス『素晴ら

しいアメリカ野球』より)
おまけにそこには観衆一人ひとりの想像力も動く。

1915年にアメリカの画家が描いた「バッター、キャッチャー、アンパイアの野球の一場面」と題した絵は不思議な空気に包まれている。打者は緊張感漲る鋭い眼光で打席に立ち、今まさに投手からストライクゾーンに投げ込まれようとしている投球



J. C. Leyendecker作品＝ユニフォトプレス提供

を待ち構えている。捕手と審判も「さあ来い！」と身構え、次の瞬間、豪速球が……という絵なのだが、観客がこんなアングルで野球を見ることはあり得ない。彼らのこんな姿を見ることのできるのは投手だけだ。

現代のテレビ中継のセンターカメラでもこの角度は投手が邪魔で無理だろう。しかし、

野球ファンなら、こんな選手の迫力ある姿も、想像力で見えるのだ。(1